

「発展する日越関係－外交関係樹立35年を経て－」

Vietnam Festival 2008 実行委員長
参議院議員 松田岩夫

日越外交関係樹立35周年記念事業「Vietnam Festival 2008」

日本とベトナムは、1973年9月21日外交関係を樹立し、昨年は35周年の記念すべき年で、今後の日越関係にとって大変重要な一年となりました。また私にとっても大変印象深い貴重な一年となりました。

私は昨年、外交関係樹立35周年を記念した日本・ベトナム両国政府のナショナルプロジェクト「Vietnam Festival 2008」の実行委員会を組織し、自ら実行委員長となり、本事業を盛大に開催し大成功を収めました。

「Vietnam Festival 2008」は、今、日本でも大変人気のベトナムフードを中心に、文化・芸能・音楽・工芸など多くのプログラムを企画し、広くベトナム文化を紹介しました。日越の著名なアーティストにも多数ご出演いただき、数々の素晴らしいパフォーマンスを披露していただきました。

9月19日の前夜祭から始まり、20日、21日と続いた3日間、東京代々木公園は、常に人で溢れかえり、会場は熱気に包まれ、まさにベトナム一色となりました。

19日の前夜祭には高村外務大臣、20日の開会式典には、皇太子殿下に御臨場いただき、思い出に残る素晴らしい式典となり、フェスティバルに大きな花を添えていただきました。

また、ベトナムからは、共産党政治局員、越日友好議員連盟会長ホー・ドゥック・ヴィエット様を団長に250名を越える過去最大規模のミッションがこの機会に日本を訪れ経済交流や文化紹介に大活躍していただきました。

さらに、JETRO、日本経団連のみなさまと協力し、日越ビジネスフォーラムも同時に開催いたしました。

私は、実行委員長として、この「Vietnam Festival 2008」を通じて、いろいろな交流が始まり、多くの思い出、深い感動が生まれたことを大変誇りに思います。この素晴らしい取り組み、素晴らしい関係を続け、さらに発展させていくことが、私たちに課せられた責任と思い、引き続き日越関係に尽力していきます。

緊密化する日越関係

日本とベトナムは外交上、障害となる懸案事項はなく、もっとも良好な二国間関係であり、大変重要なパートナーです。何より、両国は信頼関係があります。日越関係は今や単なる二国間関係に止まらず、広く東アジアの平和と繁栄に主導的役割を果たすことが期待されています。

ベトナムは1986年に導入されたドイモイ政策により成果が上がり始め、90年代中盤には、9%台の高い経済成長を続けました。90年代後半は、アジア経済危機の影響を受けましたが、その後改善し、近年は目覚ましい発展を遂げています。1995年7月にASEAN正式加盟、2007年1月には、WTOに正式加盟を果たしました。

日本ベトナム間の貿易・投資・ODA等の経済関係はますます緊密になっています。

2003年4月、日越首脳間で「日越共同イニシアティブ」の実施を合意し、官民一体でベトナムの投資環境の改善が進められました。この結果、日本企業からの投資は過去3年間で10倍と飛躍的に増加し、大きな成果を得ました。昨年11月に第三フェーズが調印され、今後2年

間のフォローアップが行われます。

また、2005年12月に開催した東アジアサミットの際、日越首脳間で正式交渉に移行することで合意した日本・ベトナム経済連携協定(EPA)は、昨年9月末大筋合意に至り、近く発効されることが期待されます。ベトナムにとって初の二国間EPAであり、今後日越間の貿易の拡大、経済関係全般の強化につながることは間違いないでしょう。

ODAについては、ベトナムは日本にとって最重点国の一つであり、ベトナムから見ると日本はトップドナーという関係にあります。これまでに、道路や橋、学校や病院の建設、人材の育成を通じて、ベトナムの発展に大きく寄与してきました。ベトナム政府も大変熱心に日本からの資金や技術移転を求め、また感謝しています。

両国関係は今、こうした経済関係のみならず、政治、文化等あらゆる面で急速に発展し、歴史的にも最良の時期を迎えていると言えます。

「Japan Festival 2006 in Vietnam」の成功、「日越科学技術協力協定」の調印

この機会に、私とベトナムとのこれまでの係わりを少し述べさせていただきます。

2005年5月、国際交流基金はベトナム文化交流ミッションを派遣し、一つの報告をまとめました。良好な日越関係をさらに発展させるには、経済面での交流に比べ、当時まだ十分とは言えない文化交流を加速させることが重要であると。そのためには、市民レベルの相互理解を促進するための大規模な文化祭の実施が必要との報告がなされました。

私は、そこで、外務省、国際交流基金、JETRO、経団連、その他国際的に活動する団体、ベトナムとの交流を行っている団体、国内の文化交流団体、活躍しているプロのアーティスト、ベトナム政府、共産党、大使館等関係する多くの団体に声をかけ、Japan Festivalの開催を提案しました。さすがに注目する国ベトナム、瞬く間に多くの方の賛同を得て、大きな国家プロジェクトになりました。

私は、2006年8月、日本から約1000名のミッションを伴って、ベトナム建国史上最大の交流イベント「Japan Festival 2006 in Vietnam」を開催いたしました。多くの関係者の方の努力と協力、ベトナム市民の熱狂的な歓迎により、イベントは大成功を収めました。あの時の感動は今でも鮮明に素晴らしい思い出として残っています。

2006年当時、私は第三次小泉改造内閣で科学技術政策・IT担当大臣を務めておりました。大臣当時、私は政策の一つの柱として、アジア各国との協力の強化に取り組みました。アジア地域の科学技術大臣の交流が重要との思いから「アジア地域科学技術大臣会合」を発案し、開催いたしました。ASEAN10ヶ国と我が国、韓国、中国、インド、豪州、ニュージーランドの科学技術大臣が一堂に会したのは初めてのことであり、私は開催国であるマレーシアの科技大臣とともに、共同議長を務めました。本会議で、今後取り組むべき地域共通の課題について合意するとともに、私が提唱したオープン・アクセス・データベースの構築についても強力な支持を得ました。この会議は、以来毎年開催されております。

特にベトナムとは、両国の科学技術における協力の一層の強化と発展を目指し、2006年8月「日越科学技術協力協定」に署名いたしました。現在、協定に基づき様々なプロジェクトが進展しています。

Japan Festivalの開催後まもない2006年10月、ベトナムのグエン・タン・ズン首相が、当

時の安倍内閣初の賓客として訪日いたしました。両国首脳は、二国間関係を一層拡大する決意を表明するため、日本ベトナム共同声明「アジアの平和と繁栄のための戦略的なパートナーシップに向けて」を発表しました。

この声明で、私が主催した **Japan Festival** が両国間の相互理解を促進する上で成果があったことを歓迎し、将来両国においてこのようなフェスティバルが開催され、更なる交流が深められることを希望すると表明されました。

続いて 2007 年 11 月にグエン・ミン・チュット国家主席が国賓として訪日し、福田総理との間で 44 項目にわたる「日ベトナム両国の戦略的パートナーシップに向けたアジェンダ」がまとめられました。このアジェンダで、2008 年に日本で **Vietnam Festival 2008** が開催されることの期待が表明されたのです。チュット国家主席立ち会いの下、私が実行委員長として、さらにベトナム側実行委員長として当時のカップ駐日大使、武部日越友好議連会長、カイ越日友好議員連盟副会長の 4 名が **Vietnam Festival 2008** の開催合意書に署名し、両国政府のナショナルプロジェクトとして位置づけられ、冒頭ふれた大成功へとつながって行きました。

さらなる発展を続けるために

日越関係の今後さらなる発展のカギは、日越の架け橋となるような人材の育成にかかっていると思います。もともと日本とベトナム両国民は、箸を使い、米を主食とし、仏教を取り入れていることなど、文化的、民族的に共通点が多くあります。ベトナムを訪れる日本人観光客は年々増加しています。日本に在住しているベトナム人は約 3 万人とされ、そのうち 3000 名が留学生です。ベトナムでは、これほどまでに親日的な雰囲気、日本語学習熱、日本留学熱が高まっている時期はありません。

昨年 3 月、ベトナムのニャン副首相兼教育訓練大臣が訪日し、2020 年までに日本でベトナム人博士を 1000 人養成する計画が合意されました。日本に留学したベトナム人学生が帰国後に様々な分野でベトナムの発展、日越関係の進展に大いに活躍して頂けるものと期待しています。私も大変素晴らしいことと思い、積極的に応援していきたいと考えています。

最後に 2009 年本年は、日メコン交流年です。ベトナム始めメコン地域の発展と交流に私も積極的に関わっていきたいと思います。

そして今年も日本とベトナムで大きな交流事業を準備しています。

みなさん、どうぞお楽しみに。そして是非参加して下さい！

Vietnam Festival 2008 実行委員長

参議院議員 松田岩夫